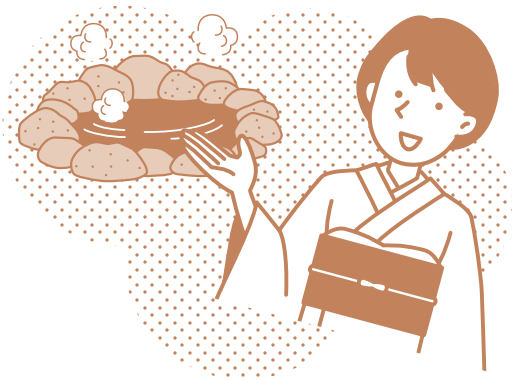
みんなの具体的な行動で
持続可能な世界を！

ちばSDGs

取組事例集

千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

ちばSDGs



千 葉 県

みんなの具体的な行動で持続可能な世界を！

ちばSDGs
取組事例集

Contents

SDGsとは …… 1

ちばSDGsパートナーとは …… 1

千葉県立大原高等学校 …… 2

株式会社オカムラホーム …… 3

市原市 …… 4

石井食品株式会社 …… 5

株式会社ナイスシーズ …… 6

日本リユースシステム株式会社 …… 7

有限会社亀山温泉ホテル …… 8

株式会社常磐植物化学研究所 …… 9

それぞれが具体的取り組みを考えるヒントに

SDGsの推進には、県民や企業など様々な主体の皆さまが、SDGsへの理解を深め自発的に取り組んでいくことが重要です。

千葉県では、「ちばSDGsパートナー登録制度」の創設に加え、チーバくんのSDGsシンボルマークを活用した広報やSDGsのセミナーを開催するなど、取り組みを後押ししています。

令和6年度は、皆さまが具体的取り組みを考え自発的に行動するヒントとして、「ちばSDGs取組事例集」を作成しました。本書では、幅広い主体のSDGsの取組を紹介していますので、是非ご活用ください。

※本書はSDGsの取り組み事例を紹介するためのものであり、特定のサービスや製品を推奨するものではありません。

持続可能な開発目標 SDGsとは

SDGs ▶ Sustainable Development Goals

持続可能な開発目標「SDGs」とは、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。貧困、紛争、気候変動、感染症等、人類が数多くの課題に直面しながらこの地球で暮らし続けていくための2030年までに達成すべき具体的な目標です。

17のゴール（下掲参照）・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本でも政府や自治体、企業・団体、教育機関、NPOなど様々な主体が積極的に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ちばSDGsパートナーとは

- 「ちばSDGsパートナー登録制度」とは、県内企業等におけるSDGs推進の機運を醸成するとともに、具体的な取り組みを後押しするため、千葉県が令和3年11月に創設した制度です。

- 登録申請のあった企業・団体等のうち、SDGsの活動に積極的で、次の項目すべてを満たす場合に登録を行っています。
  （1）環境・社会・経済の3側面で、具体的な取り組みを推進すること。
  （2）各取組について、具体的な目標が設定されていること。
  （3）登録を受けようとする者が暴力団員等に該当しないこと。

千葉県マスコットキャラクター チーバくん

ちばSDGs

- 登録されたパートナーは、SDGsに積極的に取り組む企業・団体等として、千葉県ホームページ等で紹介し、取り組みをPRします。さらに、千葉県SDGsシンボルマーク（上記）を名刺や会社案内等に使えたり、低利の県制度融資（ちばSDGsパートナー支援資金）による支援を受けることができるなどの登録によるメリットがあります。
- 登録数2,393団体※に上るパートナーたちが、SDGsの達成に向けて具体的に行動しています。 ※令和7年1月31日現在。

◎登録には届け出が必要です。詳しくはこちら▼

［千葉県ホームページ］https://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/sdgs/sdgs-touroku.html

千葉県立大原高等学校

所在地　〒298-0004 千葉県いすみ市大原7985

電話　0470-62-1171

生徒数　264名　教職員数　73名

URL　https://cms2.chiba-c.ed.jp/chb-oohara-h/

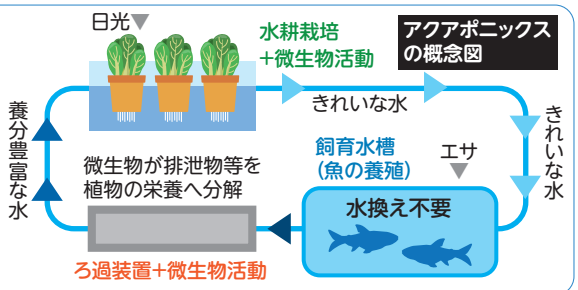
水産教育からのESD※展開として、地域の水産業や海を主体的、体験的に学び、資源を守り育てる活動を進めます。

※ESD（Education for Sustainable Development/持続可能な開発のための教育）：環境や貧困、資源などの問題を主体的に捉え、考え、行動し、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。

SDGs達成に向けた取り組み

取組　アクアポニックスを活用した食料生産と環境教育の実践

【アクアポニックスとは】魚の養殖（Aquaculture）と野菜の水耕栽培（Hydroponics）を同時に行うシステムです。魚の排泄物やエサの残りを微生物が植物の栄養源に変え、それを植物が吸収することで水がろ過され、再び魚に戻っていきます。完全閉鎖循環型、つまり、自然界に影響されない持続可能な食料生産システムとなっています。水換えが不要となるので使用水量が激減し、完全無農薬だから人にも環境にも優しく、"産地＝消費地"の都市型農水産業として輸送コストやCO_2排出の削減にも寄与します。



■**目的**／生徒たちに、アクアポニックスが環境に優しい持続可能な生産方式であることを理解してもらいながら、先進的な取り組みに挑戦する精神の育成を目指しています。また、大原高校の海洋科学系列と園芸系列との授業・技術交流を深めていくことも目指しました。

■**活動内容**／令和3年度から、海洋科学系列の「総合実習」及び「課題研究」の中で事業を展開。SDGsを身近で学べるように、校内に展示・実験用施設（下の写真）を設置し、淡水魚ホンモロコの飼育と各種野菜類の栽培をしながら、アクアポニックスの基礎的理解を図っています。また、園芸系列との交流学習や地域水耕栽培農家、淡水魚生産・販売施設及びアクアポニックス先進施設への見学と交流、高大連携先の東京海洋大学からの出前授業などを実施してパートナーシップの構築も図りました。さらに、アクアポニックスでの雨水利用や再生可能エネルギー（太陽光・風力等）の導入実験、学校内外に向けた広報活動（学内でのポスター展示や学校HP、Instagram、YouTube、マスメディアを通した情報発信）等も行っています。　※本事業は、令和3・4年度の千葉県環境教育モデル校事業に選ばれました。

■**目標**／農水産業の持続可能な生産方式を開発しながら、ESDの実践によって、SDGsの達成に貢献できる人材の育成を目標としています。

ホンモロコを飼育開始

【大原高校アクアポニックスモデルシステムの概要】

野菜類の収穫

学校からのメッセージ

●**きっかけ**／総合学科の中の4系列（海洋科学・園芸・生活福祉・普通）は、それぞれの実習場が遠隔地にあるため、系列間で専門科目を活用した授業交流が困難でした。そこで令和2年、アクアポニックスを活用して、水産×農業で食料生産・環境教育を展開しようと考えました。　●**成果**／高級魚とされるホンモロコ約100尾は、飼育1年で平均体長87.9mm、平均体重8gに成長。収穫できた野菜類はミニトマト・キュウリ・ナスやレタス類・小松菜等。　●**今後の展望**／アクアポニックスの商業ベースを考えた取り組み（魚・野菜類の販売ルートの開拓等）や4系列全体での協働（海洋科学系列が魚の養殖、園芸系列が野菜栽培、生活福祉系列が参加型作業、普通系列がまとめや改善の検討をそれぞれ行う）へのチャレンジを模索しています。

学校の一言PR

本校は、千葉県立の勝浦若潮高校（勝浦高校と御宿高校の統合校）、岬高校、大原高校が統合して平成27年に創立しました。4校の歴史と伝統を汲み、「普通」「海洋科学」「園芸」「生活福祉」の4系列を擁する総合学科高校として多種多様な学びを展開しています。

株式会社オカムラホーム

所在地　〒276-0029 千葉県八千代市村上南2-16-25

電話　047-409-9905(代)

事業内容　●不動産コンサルティング　●建設事業　●賃貸管理　●新築戸建・注文住宅　●リフォーム増改築　●古民家再生・リノベーション　他

従業員数　85人　URL　https://www.okamura-home.co.jp

SDGsの輪を広げていくために法人設立 産学官で課題に取り組む

SDGs達成に向けた取り組み

取組① MIRAI KOMINKA for Schoolの設立

■目的・活動内容／令和2年7月、オカムラホームは【今まで以上にお客様に選ばれる「地球環境にやさしい品質の良い商品つくり」に取り組むと共に、オカムラホームが発展し、持続性をもって地域に貢献・還元できる組織になることを、宣言します。】というSDGs宣言を表明し、それを皮切りに、SDGs活動団体として（一社）MIRAI KOMINKA for Schoolを令和3年5月に設立しました。この団体はSDGsを一企業の取り組みで終わらせず、地元や周辺地域の関係者・関係企業・団体を巻き込み、単独では成しえない活動の輪を広げていくことを目的としています。その活動の主体は、未来の担い手である子どもたち（学生）であり、オカムラホームはSDGs活動団体を設立・運営することで、その活動を支えていきます。

■目標／多様な主体が連携し、SDGsの地域課題に取り組んでいきます。

MIRAI KOMINKA for School ～みらいのホーム～

地域課題について学ぶ高校生

取組② MIRAI KOMINKA for Schoolプロジェクトで千葉県の高校生と産学官でSDGsの課題を研究

■目的・活動内容／プロジェクトは令和3年度にスタートし、1年間完結で実施。高校生の柔軟な思考と行動力のもと、持続可能な活動として、様々なSDGsの課題に取り組み、活動報告や発表会で情報の共有と発信を行うほか、活動の成果や得られた利益は地元に還元します。「産」の協賛・後援企業は地元企業や店舗、農家、飲食店など。「学」の参加高校は、これまで4年間の活動で11校に上ります。「官」としては佐倉市、船橋市、八千代市などが参加・協力しています。オカムラホームは、協賛・後援企業の中心となってプロジェクト全体をサポートしてきました。以下が具体的な取り組みの一例です。

●オリジナルSDGsスイーツ＆フードの開発／佐倉市内の5つの高校の生徒が、市政70周年の佐倉市とコラボし、地元食材やCO_2削減につながるバイオ炭で育てたさつま芋などを使った「佐倉弁当」を開発。

●フードロス削減／千葉英和高等学校が、規格外の地元特産品を使った焼き菓子を開発。

●地元農水産物の消費UP／海の豊かさを守るため、生浜高校と房の駅を運営する「やます」がコラボし、「房州のりアレンジレシピ」を考案。

その他、子ども食堂の運営、空き家対策、観光振興など多岐にわたる地域課題に取り組んできました。

令和6年度 第4期プロジェクトに参加した高校生

■目標／活動を通してSDGsへの気づきや理解を深め、具体的なアクション（行動）を起こしていくことを目標にしています。

企業からのメッセージ

●きっかけ／以前より、地域・社会貢献として様々な活動を行ってきましたが、地域の人々と協力しながら、より広い視点で「持続可能な世界」を目指していきたいと考え、SDGsをただの言葉に終わらせず、私たちが行動で示し、地域に発信・浸透させていきたいと考えました。●成果／子どもたち(学生)がSDGsプロジェクトに取り組むことで、地域資源の活用や環境保全活動、世代間交流を通じた地域活性につながり、子どもたち自身の成長にもつながっています。その成果として、地域の特産品のPRを目的に開発した商品がふるさと納税返礼品に認定されたほか、令和4年度には、私どもの取り組みが、ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)※として表彰されました。●今後の展望／子どもたちが自ら考え、踏み出した一歩は、周囲に影響を与え、社会を変えていく力を持っています。私たちはこれからも子どもたちを応援し続けながら、いっそうのSDGs活動に取り組んでいきます。

企業の一言PR

「HouseではなくHomeをつくる」。私たちオカムラホームはこの言葉を胸に、常にお客さまに、住まいを通してより多くのやすらぎと幸せをご提供できたらと考えています。お客さまが未来への夢や想いをこめた一つひとつの"種"を大切に育み、人々の豊かな暮らしが息づく"森"となるように、お客さまと共に歩み続けます。

※ちばコラボ大賞（千葉県知事賞）：千葉県では、福祉や環境、子育て、まちづくりなどの分野で、様々な団体や企業、学校、行政機関等が連携して地域の課題解決に取り組んでいる事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞」（千葉県知事賞）として表彰しています。

市原市

所在地	〒290-8501 千葉県市原市国分寺台中央1丁目1番地1
電話	0436-22-1111（代表）
人口・世帯数	人口:267,290人（男:137,805人/女:129,485人） 世帯数:132,023世帯
市職員数	2,059人 ※人口・世帯数は令和6年11月1日現在 ※市職員数は令和6年4月1日現在
URL	https://www.city.ichihara.chiba.jp/

「SDGs未来都市いちはら」として、多様な主体との対話と連携のもと、「SDGsのシンボルとなるまち」の実現に向けて取り組んでいます。

SDGs達成に向けた取り組み

取組① 市原市SDGs戦略の策定 ～SDGsのシンボルとなるまちへ～

■目的・活動内容／市原市は、SDGsの達成に向けて令和2年度末に「市原市SDGs戦略」を策定し、多様な取り組みを展開しています。特に、令和3年度～5年度の3年間は、スタートダッシュのために3つのリーディングプロジェクト〈**【1／臨海部コンビナートとともに挑む～市原発サーキュラーエコノミーの創造（下記）】【2／自然との共生～里山・アートを活かした持続可能なまちづくり】【3／全ての子ども・若者に夢と希望を～子ども・若者の貧困対策】**〉を定め、戦略的に取り組んできました※。

■目標／「SDGsで誰もが幸せな未来をつくる」「SDGsで市民・団体・企業などすべてのステークホルダーをつなぐ」

※本市の取り組みは、内閣府から令和３年度の「SDGs 未来都市」と「自治体 SDGs モデル事業」に選定されました。内閣府は、地方創生 SDGs の達成に向け、優れた SDGs の取り組みを提案する地方自治体を「SDGs 未来都市」として選定し、その中で特に優れた先導的な取り組みを「自治体 SDGs モデル事業」として選定して支援し、成功事例の普及を促進しています。

「SDGs未来都市いちはら」ロゴマーク

取組② 臨海部コンビナートとともに挑む～市原発サーキュラーエコノミーの創造～

■目的／国内有数の石油化学コンビナートを擁する都市として、2050年カーボンニュートラルと持続的発展の両立に向けて、市原発サーキュラーエコノミー（資源を効率的に循環させながら付加価値を生み出す経済システム）の実現を図ります。

■活動内容／食品トレーなどの使用済みポリスチレン製品を回収し、新技術で化学的に分解して素材に戻し、再度食品トレー等の製品の素材などに使用するという資源循環の取り組みに、市民・企業・行政が一体となって挑戦中です（**市民**:アンケート調査への参加や適切な分別回収への協力等、**企業**:化学メーカーによるケミカルリサイクル※プラントの建設・稼働や企業間連携による使用済製品の回収PR等、**行政**:リサイクルシステムの構築や市民・企業への周知啓発等）。基礎調査や回収システムの検証、試験回収等を経て、令和6年度から、市内全域を対象としたポリスチレンケミカルリサイクルの本格運用を開始し、プラントも稼働し始めました。

■目標／先駆的な取り組みとなるポリスチレンケミカルリサイクルで新たなビジネスモデルを構築し、ステークホルダーとの連携により、様々な波及効果による自律的好循環を生み出します。

※ケミカルリサイクル:廃プラスチックなど使用済みの資源を化学的に分解し、原料に変えてリサイクルする方法。

取組③ 高校生・大学生を中心とした「ご当地版SDGs学習ゲーム」の制作

■目的・活動内容／市民・団体・企業などへSDGsの輪を広げていくために、高校生や大学生を中心としたチームで**【ご当地版SDGs学習ゲーム「いちはら版Get The Point」】**を制作。資源を使って商品を作り、獲得したポイントを競うカードゲームで、楽しみながら市原市のSDGsのことを学べます。

■目標／子どもから大人まで幅広い世代の方々に楽しみながらSDGsの必要性や可能性を学んでいただき、SDGsの裾野を広げ、SDGsの達成に向けてみんなが行動するまちを目指しています。

市原市からのメッセージ

●きっかけ／人口減少・少子高齢化、里山の荒廃など本市が抱える様々な課題の解決や、本市の経済を支える臨海部企業の持続的発展を目指して、SDGsの視点を取り入れた多様な取り組みを開始しました。

●成果／3年間で市民のSDGsの認知が大幅に上昇しました。また、本市の「市民参加のSDGs推進モデル」が「2023CRMベストプラクティス賞」※を受賞しました。

●今後の展望／これまでの取り組みを発展させ、市民、企業、各種団体などあらゆる人々との更なる対話と連携により「SDGsのシンボルとなるまち」の実現を目指します。例えば、市原発サーキュラーエコノミーの創造では、ポリスチレン以外の素材や他の分野へとサーキュラーエコノミーを波及させ、環境と経済が両立する持続可能なまちを目指します。

市の一言PR

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、県内で最も広い市域を有する人口約27万人の地方自治体です。国内有数のコンビナート群、水と緑豊かな美しい里山、多くの史跡や文化財などのある本市は、「日本の縮図」といわれるほどに、様々な魅力が「ミックス」されています。

※CRMベストプラクティス賞:一般社団法人CRM協議会が、顧客を中心に据えて事業や活動に取り組む企業や自治体、団体を毎年選定し、「CRMベストプラクティス賞」として表彰しています。

石井食品株式会社

所在地 【本社】〒273-8601 千葉県船橋市本町2-7-17　☎047-435-0141（代）
【八千代工場】〒276-0029 千葉県八千代市吉橋1835　☎047-459-7541

事業内容 ミートボール・ハンバーグなど、食肉及び食肉加工品を中心とした調理済み食品の製造及び販売

従業員数 388人（臨時、パート除く）※令和6年3月31日現在

URL https://www.ishiifood.co.jp

「地域と旬」をテーマにした独自の商品開発で食の循環型ビジネスモデルの構築を目指す

SDGs達成に向けた取り組み

取組① 「地域と旬」で土地の旬の味わいを全国へ

■目的／「地域と旬」というテーマのもと、独自の商品開発で未来に持続可能な食の循環型ビジネスモデルを構築します。

■活動内容／「地域と旬」は、日本の各地域で手間ひまをかけて育てられた食材を、石井食品の無添加調理技術※によって魅力ある製品へとプロデュースする活動です。
日本には様々な地域の、様々な生産者が手塩にかけた旬の食材があります。これらの多くは地域の方々にしか知られず、その地域でのみ食され続けられます。私たちは全国の地域食材の中から、このようにまだ広く知られていない素晴らしい食材を厳選し、労力と時間を惜しまず日々の商品づくりをしています。
石井食品の社員自らが生産者のもとへ足を運び、対話を繰り返しながら、食材を厳選し、日々商品づくりに励んでいます。そうすることで、生産者の皆さまから商品に対するアドバイスをいただいたり、逆に私たちから原材料の有効活用の提案などができるようになります。この双方向の関係により、「持続可能な農業モデル」を創出することができると考えています。

■目標／製品を通じ、その土地のアピールや地域の活性化につなげ、持続可能な農業と地域社会の発展を目指しています。

※石井食品での製造過程においては、食品添加物を使用していません。

三方よしとなるよう持続可能なビジネスモデルを構築。生産者の顔の見える製品開発や販売で地域活性につなげます。

愛知県大府市の生産者と連携。写真は地元保育園児との玉ねぎの収穫体験の様子。

取組② ミートボールを軸にサステナブルな開発・製造・販売を実践

■目的・活動内容／生産者と消費者を尊重した持続可能な社会と環境づくりを広げていくため、多様でサステナブルなSDGs活動に取り組んでいます。

❶「ミートボール」などの定番商品にオーガニック食材を使用することで、土壌を守り、より多くの消費者に安心で信頼できる食品を提供し、持続可能かつ責任ある農業の発展を目指しています。
❷強度を保ちながら包装資材を薄くすることで、プラスチックを削減。また、環境配慮包材の開発を展開する資材メーカーと共同開発などに取り組んでいます。
❸工場で太陽光発電やCO_2フリーな自然エネルギーなど、再生エネルギーの活用を推進しています。
❹規格外の野菜・果物を活用した商品開発により食品ロスを削減します。

ミートボールのトマトソースをはじめとして、オーガニックの先駆者・アルチェネロのイタリア産有機トマトペーストを使用

企業からのメッセージ

●きっかけ／弊社にとって環境活動は特別なものではありません。これからの社会に持続可能な、新たな食の循環型ビジネスモデルを構築するため、時代のニーズに合わせたサステナブルな取り組みを行なってきました。　●成果／「地域と旬」シリーズで全国の新たな産地と取り組みを開始し、取り引き産地や取り扱い品目を拡大しました。日本ギフトの経済的・文化的発展への貢献を目的とした日本ギフト大賞で、「房総ブイヤベースセット」が、地域に根ざした独自のギフト商品であることが評価され「日本ギフト大賞2023都道府県千葉賞」を受賞しました。
●今後の展望／生産者や地域の価値循環のきっかけをつくる地域活性のパートナーとして、商品開発・製造・販売に加え、それ以外の領域での貢献にもチャレンジし、地域の食材が本来持つポテンシャルを最大化し、生産量の拡大・雇用創出を後押しするなど地域食材のプロデュース活動を強化していきます。

企業の一言PR

令和6年に「イシイのおべんとクンミートボール」が発売50周年を迎えました。今後は、「パッケージの減プラ」、「オーガニック素材の使用」、「もっと"使える"ミートボールに」の3つの宣言を掲げ、これらに基づく取り組みを強化し、産地から食卓、子供たちに本物を届ける"農と食卓をつなぎ子育てを応援する企業"を実現していきます。

株式会社ナイスシーズ

所在地　〒263-0051 千葉県千葉市稲毛区園生町138番地11　T&Iビル

電話　043-445-8668

事業内容
- 老人ホーム、保育園、ホテルなどの衛生環境改善装置の開発・販売・施工・管理
- SAE微酸性電解水による除菌・消臭を目的とした機器設計・システム構築
- 「通販ショップナイスシーズ」運営

URL　https://niceseeds.jp

電気や水道水のない場所でも次亜塩素酸水※を生成して除菌・消臭が行える装置の説明をする代表取締役中尾正三郎氏

※次亜塩素酸水：除菌・防臭剤の一種で、殺菌成分である次亜塩素酸を主成分とする水溶液。

人と環境にやさしい除菌・消臭剤の開発で、介護施設や保育園、公共施設の衛生環境改善を目指す

SDGs達成に向けた取り組み

取組① 農業や畜産、災害等の現場でも使えるように「次亜塩素酸水」の独自の生成装置を開発

■目的・活動内容／除菌・消臭剤の次亜塩素酸水を生成する従来の一般的な装置は、電気、水道水が無いと使えませんでした。ナイスシーズは、災害現場等のライフラインが止まった場合でも使えるように、蓄電池とポンプを使った独自の生成装置の開発に取り組みました（上部写真参照）※。この生成装置は、2023年ベンチャーカップCHIBA※※でSDGs賞に選ばれ、同年千葉市トライアル発注認定事業※※※の認定商品にも選ばれました。
また、次亜塩素酸水の移動式噴霧装置（写真右）も独自開発しました。

■目標／この2種の装置の組み合わせにより、畜産業では鳥インフルエンザの予防やニオイの軽減、農業では農薬の使用量を減らし、野菜や加工食品の安全性を高め、働く方々の健康にも寄与。災害現場や避難所では衛生環境を改善するなど、様々な社会問題の解決を目指しています。

次亜塩素酸水の移動式噴霧装置（180畳対応）

※特許出願済　※※ベンチャーカップCHIBA：（公財）千葉市産業振興財団が開催する、千葉市発の将来性ある新たなビジネスの創出を目指したビジネスプランコンテスト。　※※※千葉市トライアル発注認定事業：市内の中小企業等が提供する優れた新製品（物品）及び新役務（サービス）を千葉市が認定し、積極的にPRを行うことなどによって販路開拓を支援するとともに、認定商品の一部を市が試験的に購入し評価する制度

取組② 除菌・消臭効果と安全性の高い「SAE（サエ）※次亜塩素酸水」の開発

※SAE：Slightly Acidic Electrolyzed water（微酸性電解水）の頭文字を取ったもの（ナイスシーズ商標登録済み）。
製品の詳細は、ナイスシーズのホームページ（ページ上部のアドレスと二次元バーコード）をご覧ください。

千葉市の「ふるさと返礼品」に選ばれています

■目的・活動内容／インフルエンザ等の対策に使われている次亜塩素酸水は、生成時、塩や次亜塩素酸ナトリウムを使って作るものもありますが、ナイスシーズではこれらを使用せず、安全性にこだわった次亜塩素酸水の製法開発に取り組みました。製造の際、殺菌成分・次亜塩素酸の濃度を上げることが難しかったのですが、独自の技術「二重電解・攪拌方式」によって課題を解決し、安全性と有効性の高い液体を作ることが可能になりました。この「SAE（サエ）次亜塩素酸水」は、上述の生成装置と同様に、2022年ベンチャーカップCHIBAでSDGs賞を受賞し、同年、千葉市の認定商品に選ばれました。
また、次亜塩素酸水は光と空気に弱く保存性が高くないというデメリットがあり、ナイスシーズでは使用途中でも除菌・消臭力が落ちないようにアルミ容器の真空バイトン※キャップを開発しました※※。さらに、容器には酸素を通しにくい二重構造のバックインボックス※※※を採用することで保存性を高めるなど、より使いやすく、品質の高い液体が届けられるように努めています。

■目標／現在、「SAE（サエ）次亜塩素酸水」は千葉市の公立保育園54か所と八千代市公立保育園6か所他民間保育園多数に導入されていますが、まずは千葉県内のより多くの保育園、介護施設に安心、安全な商品をお届けすることを目標にし、人々の健康増進を図っています。

「SAE（サエ）次亜塩素酸水」商品ラインナップ

※バイトン：耐熱性、耐油性、耐薬品性に優れた合成ゴムです。デュポン社が開発しました。　※※特許出願済　※※※バックインボックス：主に古紙75％以上のダンボールとポリエチレン製の内袋でできているリサイクル型容器です。リサイクルが容易なので環境負担低減に役に立ち、廃棄コストも削減できます。

企業からのメッセージ

●きっかけ／10年以上前、子どもが通っていた保育園の園長さんから「感染症を防ぐ安全な除菌剤は無いの？」と聞かれたことから開発を始めました。　●成果／上記の製品導入実績や受賞歴等をご参照ください。　●今後の展望／安全性と有用性の高い除菌・消臭剤「SAE（サエ）次亜塩素酸水」が、衛生管理や除菌・消臭の需要が高い様々な場所で使われていくことを目指しています。

企業の一言PR

日本で初めて発明された次亜塩素酸水。これをさらに改良したSAE次亜塩素酸水で感染症対策にお役立て頂ければ幸いです。

日本リユースシステム株式会社

所在地 【古着deワクチンセンター】
〒292-0838 千葉県木更津市潮浜1-17-105
電話 0120-206-225

事業内容 リユース品やリサイクル品の輸出入および国内販売
従業員数 60人　URL https://www.nrscorp.jp/index.html

皆様よりお送りいただいた衣類を選別・輸出する古着deワクチンセンターと従業員たち

衣類の有効活用と開発途上国にワクチンを届ける取り組みを筆頭に様々なSDGs事業を創出

SDGs達成に向けた取り組み

取組❶ 古着deワクチン

■目的／物のあふれる日本では毎年約33億着もの良質な衣類がごみとして大量に捨てられていて、かたや世界に目を向けるとワクチンで予防可能な病気で20秒に1人の子どもが亡くなっているという点に着目し、そうしたアンバランスな現状を結びつけ、解決に繋げたい思いで平成22年11月からこの取り組みをスタートしました。

■活動内容／不要になった衣類、バッグ・靴・服飾雑貨を便利に片づけることができ、加えて国内外の社会貢献に繋がるサービスを考案しました。利用者は、お片づけのキットを購入し、洋服や服飾雑貨を衣類回収袋に詰めて発送するだけでとても簡単に取り組みに参加できます。これは5つのいいことにもつながります。 Ⅰお部屋がすっきり片づく Ⅱ不要になった衣類を廃棄することなく再利用してCO_2削減にもつながる（お送りいただいた衣類はカンボジアを中心に再販売・再輸出される） Ⅲ1キットにつき5人分のポリオワクチンが開発途上国の子どもに贈られる Ⅳ配送キットの梱包作業などを福祉作業所が実施することで、国内の障がいを持つ方のお仕事を創成 Ⅴカンボジア直営センターでは、ポリオの後遺症による障がいをもつスタッフが自立を目指し働くことのできる雇用の創出につながる

■目標／古着deワクチンは、ポリオで苦しむ子どもが1人もいなくなる世界を目指しています。国内外にわたるこの取り組み全体で、累計1,000万人分のワクチン寄付を目標に、様々なパートナーと連携して推進していきます。

古着deワクチンの仕組み

取組❷ お針子事業

■活動内容／着物deお針子（古着deワクチンの姉妹シリーズ）で集まった着物や帯をモンゴルの工場に送り、独自の技術で生地に戻し、ヨーロッパを中心に「Kimono Upcycle Cloth OHARIKO」として販売しています。工場で働く従業員も、障がい者や貧困層、シングルマザーなどの多様な人々を採用し、現地で新たな雇用を生み出しています。

■目標／モノをできるだけ長く使い続ける取り組みで、廃棄物を減らし、持続可能な消費と生産の実現を目指します。

古着deワクチンが第3回ジャパンSDGsアワードで特別賞（SDGsパートナーシップ賞）を受賞

企業からのメッセージ

●きっかけ／「誰が購入・利用しても誰と取引してもあらゆる国の人々に「それって素敵だね！」と評価していただける商品提供・サービス・事業・活動を行うオンリーワンアドベンチャー企業として挑戦し続ける。」を企業ビジョンに掲げ、創業以来循環型社会の実現に向けて取り組んでいます。 ●成果／平成22年11月の活動開始から令和6年12月までに、累計で約600万着分の衣類を再利用し、約800万人分のワクチンを寄付させていただきました。令和元年、「古着deワクチン」は、持続可能なビジネスモデルと長年の社会貢献が評価され、「第3回ジャパンSDGsアワード」※にて特別賞（SDGsパートナーシップ賞）を受賞しました。 ●今後の展望／2030年までのSDGsのゴール達成に向けて、衣類等のサステナブルな活用と、国内外の障がいがある方の自立をサポートする挑戦を加速するため、「古着deワクチン」をOEM(委託)販売いただける通販・物販企業の共創パートナーを募集しています。

企業の一言PR

令和7年で15年目を迎える古着deワクチンは、月3万人のお客様にご利用いただいております。千葉県木更津市のセンターには毎日約800袋が届いています。関係するスタッフがなにげない日常や活動内容をインスタグラムに投稿していますので是非ご覧ください。

nrs_staffdiary

※ジャパンSDGsアワード：全国務大臣が構成員であるSDGs推進本部が、SDGs達成に向けて優れた取り組みを行っている企業や団体などを表彰するもの（平成29年度～令和6年度に実施）。

有限会社亀山温泉ホテル

所在地	〒292-0523 千葉県君津市豊田65
電話	0439-39-2121
宿概要	客室：14室　温泉：天然自噴温泉（ナトリウム－塩化物・炭酸水素塩温泉）
従業員数	45人
URL	https://www.kameyamaonsen.jp/retreats/

地域の環境課題の解決（廃材の有効利用）や都会の人々の心身の健康増進でSDGs達成を目指す

SDGs達成に向けた取り組み

取組① 地域で里山整備　廃材・間伐材を薪ボイラー・焚き火等で有効活用

■目的／亀山湖のある君津市山間部は森林資源が豊富で、以前から様々な自然環境団体、里山整備団体が活動していました。亀山温泉ホテルは地域の中核となって里山整備に協力し、集会や打ち合わせ会場として、多世代が集うコミュニケーションの場所としての役割を果たしてきました。以前は、里山整備の際、大量に出る廃材・間伐材の処理に困っていたのですが、それらを亀山温泉ホテル内で有効に活用することでごみを資源化し、SDGsの達成に貢献しようと考えました。

地域の自然環境団体や里山整備団体による君津市山間部での里山整備の様子。

■活動内容／平成27年に亀山温泉ホテルに薪ボイラーを導入、森林整備の際に出る廃材や間伐材が運び込まれ、地産地焼、自然エネルギーとして亀山温泉の加温に、さらに役立てていました※。これにより、地域の里山整備で出る大量の廃材、間伐材の処理の目途が付き、それぞれ異なる団体が薪を運び込むことで、地域のコミュニケーションの輪が広がりました。令和3年度からは「亀山温泉リトリート※※」（下記）をスタートし、焚き火やキャンプファイヤーなどの間伐材を使用したファイヤーアクティビティを奥房総エリア全体が共有して実施しています。

■目標／自然環境の豊かさを守りながら、廃棄物を減らし、観光業が持続的に発展することを目標として、観光客がファイヤーアクティビティに参加すればするほどボランティアの活動が賑わい、森が整備され続けるという持続可能な観光と地域の関係構築に取り組んでいきます。

※薪ボイラーは台風で破損し、現在は使用していません。　※※リトリート：日常の喧騒から離れ、静かな落ち着いた場所で心身をリフレッシュさせること。

取組② 自然体験&リトリート事業で、地域の自然を守りながら宿泊客の心身の健康を増進

■目的／深い緑に囲まれた自然豊かな亀山湖で、単なる宿泊・観光にとどまらない「自然体験&リトリート」によって、都会の喧騒を忘れ、大自然の静寂と夜は満天の星空を堪能しながら究極のリラクゼーションを体験してもらうことで、人々の心身両面での健康増進を目指しました。

亀山湖ネイチャーガイド×湖畔ヨガの「ヨガリトリート」

■活動内容／天然温泉入浴と会席料理、基本となる自然の中での癒しを大事にしながら、亀山湖畔での滞在中のサポートでは様々なレイクセラピー&自然体験を「亀山温泉リトリート」として提供しています。「リトリートグランピング」「レイクリトリート」「焚き火リトリート」「ヨガリトリート」「企業リトリート研修」など多様なプランがあります。宿泊客が亀山湖のダイナミックな自然を満喫し、心身のリセット&リフレッシュができるように経験豊富なスタッフがサポートします。

■目標／周囲の自然環境を守りながら、リトリートによって宿泊客が心身の健康を増進できるようにし、観光業としても持続的に発展していくことを目標としています。

ホテルからのメッセージ

●きっかけ／亀山湖を含む奥房総エリアは、"千葉県最後の秘境"と呼ばれるほど豊かな自然が残されており、当宿の魅力であり強みです。これを利用した事業活動が、結果としてSDGsにつながれば、本当の意味で"持続可能"になるのではないかと考えました。　●成果／令和3年10月、（一社）日本SDGs協会※から、千葉県のホテルでは初めて事業認定を受けました。同時期に、内閣府の「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」※※に入会しました。また、当ホテルのリトリート&自然体験担当・豊島大輝によるリトリートのガイド本『しつこい疲れがみるみるとれる！リトリート休養術』（令和6年12月、すばる舎）が出版されました。
●今後の展望／コロナ禍後の回復が目覚ましいインバウンドにも着目し、海外向けの英語観光サイトへの掲載を図るなどして亀山温泉におけるリトリートの素晴らしさを世界に広め、人々の健康を増進することでSDGsを一層推進していきたいと考えています。

ホテルの一言PR

亀山湖は千葉県の中央部にあり、アクアラインで都心から1時間半程度でアクセス可能。水も星も綺麗な、リトリートにはふさわしい場所です。
目の前に亀山湖を一望できる当宿では、滞在スタイルに合わせた豊富なレイクセラピー&自然体験にご参加いただけます。

※（一社）日本SDGs協会：SDGs達成に向けた様々な活動をサポートすることを目的とした民間団体です。企業・団体などの取り組みを評価し、SDGs達成への貢献について認定しています。
※※内閣府では、SDGsの促進と地方創生を目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として、地方創生SDGs官民連携プラットフォームを設置しています。

株式会社常磐植物化学研究所

所在地 【本社/工場】〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158

電話 043-498-0007

事業内容 医薬品原薬、健康食品原料、化粧品原料、食品添加物等の製造及び販売

従業員数 150人

URL https://www.tokiwaph.co.jp

多様な環境活動を継続して行ってきた結果、工場でのCO2排出量99%削減に成功

SDGs達成に向けた取り組み

取組① カーボンニュートラル※を目標に省エネ&CO2排出量削減を推進

※カーボンニュートラル：CO2などの温室効果ガスの実質的な排出量がゼロとなった状態

■目的／当社は、植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、生物多様性、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指しています。

■活動内容／環境経営を実践するために、"エコアクション21（EA21）※認証登録制度"に登録し、環境への取り組みを推進してきました。
本社（佐倉市）で、電気とガスの調達方法に新しい仕組み※※を導入するなどして、実質的なCO2排出量を大幅に削減しました。また、太陽光パネルを設置して電気の購入量削減も図っています。さらに、冷暖房温度設定の徹底など、きめ細かな省エネに努めました。
また、原料製造の工程で排出された植物の搾りかすは、たい肥や箱などの資材に100%リサイクルしており、廃棄物を削減することで環境負荷軽減に貢献しています。

■目標／カーボンニュートラルを目標とし、すでに令和5年、令和6年にはCO2排出量の99%削減を達成して、その維持・継続を図っています。

※EA21は、環境省が策定した環境経営のガイドラインです。すべての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的とし、仕組み作りや活動、改善、結果の公表方法などについて定めています。

※※【電気】カーボンニュートラルの電気（再生可能エネルギー由来であるという価値を付与した電気）を100%購入
【ガス】カーボンオフセットLNG（削減量や排出権の取引で温室効果ガスの排出量を相殺した天然ガス）を100%購入

太陽光パネル設置・運用のほか、電力と燃料の様々な削減策でCO2排出量99%削減を実現

これまでの取り組みが評価され、「エコアクション21オブザイヤー2023環境大臣賞」を受賞

取組② 実験講座、体験実習を通じて次世代の科学技術系人材の育成に貢献

■目的・活動内容／地域の子どもたちに向け、科学（特に化学）を身近に感じてもらえるような実験講座、体験実習などを継続して行い、教育の質の向上や科学の発展によるSDGsの達成を図ってきました。以下が主な取り組みです。❶小学生向けのハーブ園見学、❷中学生向けの職業セミナー（科学技術系研究職の講師として参加）、❸高校生向け実験講座（植物成分の精製実験等）、❹大学生向けオンライン講義（法政大学「植物医科ビジネス論」等）、❺世界で活躍する研究者を講師に招いた講演会などを実施。

本社に隣接した佐倉ハーブ園を見学する小学生

企業からのメッセージ

●きっかけ／当社は元々ESG経営（環境・社会・ガバナンスを重視した経営）を進めてきましたが、平成27年に「国連持続可能な開発サミット」でSDGsが採択されたことで、ESG活動がいっそう加速しました。令和2年4月より社長のもとに「経営企画室（旧:サスティナビリティ統括室）」を、その配下に「サスティナビリティMAT（部門横断組織）」を設置し、様々な事業及びCSR（企業の社会的責任）活動を通してSDGsの実現に貢献してきました。
●成果／これまでの環境・社会活動をご評価いただき、令和6年3月、「エコアクション21オブザイヤー※2023」で環境大臣賞（ソーシャル部門・金賞）をいただきました。また、令和6年には「ポジティブ・インパクト評価」※※に取り組み、ESG活動に基づいた資金調達（ESGファイナンス）を行いました。 ●今後の展望／当社は令和6年、創業75周年を迎えましたが、創業100周年までの目標である「世界一の植物化学企業」の達成に向け、植物成分（ファイトケミカル）の研究開発・製造・販売を通じ、人と植物の明るく幸せな未来創りへの貢献を目指しています。また、継続的にESG経営を社会に示し、サステナブルな地球環境、社会づくりに貢献して参ります。

企業の一言PR

当社は、昭和24年に国立衛生試験所元所長松尾仁博士を中心とする会社設立趣意に基づき創業された、日本初の植物化学の専門企業です。社会に役立つ植物成分（ファイトケミカル）の新たな価値の創造に挑戦し、植物のちからを引き出すことで、専門企業ならではの製品とサービスを提供し、社会の発展に貢献することを日々追求・実践するメーカーです。

※エコアクション21オブザイヤー：環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証・登録事業者を対象に、第三者機関である中央事務局が、環境経営レポート及び社会課題解決につながる取り組みを毎年顕彰しています。 ※※ポジティブ・インパクト評価：企業活動が経済・環境・社会に与えるインパクト（ポジティブ並びにネガティブな影響）を包括的に分析・評価するもので、企業活動の継続的な支援を目的としています。本評価は日本格付研究所（JCR）から第三者意見を取得して客観性を担保しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs17のゴール

Goal 1
あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる

Goal 2
飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養改善を実現し、
持続可能な農業を促進する

Goal 3
あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、
福祉を促進する

Goal 4
すべての人に包摂的かつ公正な
質の高い教育を確保し、
生涯学習の機会を促進する

Goal 5
ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う

Goal 6
すべての人々の水と衛生の
利用可能性と
持続可能な管理を確保する

Goal 7
すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する

Goal 8
包摂的かつ持続可能な経済成長及び
すべての人々の完全かつ生産的な雇用と
働きがいのある人間らしい雇用
(ディーセント・ワーク)を促進する

Goal 9
強靭(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る

Goal 10
国内及び各国家間の不平等を是正する

Goal 11
包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する

Goal 12
持続可能な消費生産形態を確保する

Goal 13
気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる

Goal 14
持続可能な開発のために
海洋・海洋資源を保全し、
持続可能な形で利用する

Goal 15
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の
推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対
処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物
多様性の損失を阻止する

Goal 16
持続可能な開発のための平和で包摂的な社
会を促進し、すべての人々に司法へのアクセ
スを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的
で説明責任のある包摂的な制度を構築する

Goal 17
持続可能な開発のための実施手段を強化し、
グローバル・パートナーシップを活性化する

千葉県総合企画部政策企画課

令和7年2月

※掲載内容は令和7年1月現在のものです。